ラーニングコモンズ
利用実態調査からみる利用傾向

島根大学学術情報機構附属図書館
情報サービスグループ　金　子　尚　登

1　はじめに

島根大学附属図書館は平成24年度に耐震・機能改修工事を行い、平成25年４月４日にオープンしました。この機能改修としては、館内レイアウトの変更や各スペースの整理と再配置を行いましたが、その中で新たなスペースとして「ラーニングコモンズ」を設置しました。「ラーニングコモンズ」は複数の学生が集まって、様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものとされています[1)]。平成18年に米澤誠氏により日本に紹介されると[2)]、大学図書館の新しい潮流として注目を集めるようになり、近県の国立大学に限っても最近図書館の改修工事を行った鳥取大学、岡山大学、山口大学、香川大学はいずれも「ラーニングコモンズ」を設置しています。

本稿は附属図書館が耐震・機能改修工事後再オープンしてから１年経過して、利用者が「ラーニングコモンズ」という新しいスペースをどのように使っているのか調査した結果を報告するものです。

2　当館ラーニングコモンズについて

当館においては建物の出入り口に近い西側に「ラーニングコモンズ」（１階、78㎡、座席数58）と「ラーニングコモンズ２」（２階、51㎡、座席数21）の２か所に配置されています。利用者には、グループで話し合い等をする場合はこちらのスペースを利用していただくようにお願いしています。

写真１　ラーニングコモンズ

写真２　ラーニングコモンズ２

１階の「ラーニングコモンズ」はドアのないオープンスペースとなっており、58席中18席は窓側のハイカウンター席、残り40席はキャスター付きのイスで同じくキャスター付きのテーブルと、人数に応じて自由に組み合わせができるようになっています。また壁面および移動式のホワイトボードを配置して、グループ学習やディスカッション等で使用できるようになっています。その他プロジェクタや電子黒板などの設備を配置しています。

２階の「ラーニングコモンズ２」はやや狭いものの、キャスター付きのイスと机、ホワイトボード、プロジェクタなどを同様に配置しており、またドアを閉めて一つの教室のように使用することもできるようになっています。

３　調査の方法

調査期間は平成26年７月８日（火）～10日（木）（以下通常期）、および利用者が非常に多くなる定期試験期間にあたる同年７月29日（火）～31日（木）（以下試験期）の２回６日間としました。実際の調査は、職員および調査に関する説明を受けた学生アルバイトが行い、９：00から21：00まで１時間ごとに目視で利用者の状況を確認し、調査票に記入しました。その後各項目をデータ化し集計するという手順をとりました。なお調査方法は先行調査[3)、4)、5)、6)]を参考に館内のワーキンググループで検討の上で決定しました。

４　結果

調査対象となった利用者の延べ人数を場所別、時期別、個人・グループ別に示したのが表１～３です。試験期は通常期よりも利用人数が倍以上に増えています。また「ラーニングコモンズ」は「ラーニングコモンズ２」より座席数は３倍弱ですが、利用している人数としては４倍弱とより利用が多くなっていました（表１）。また、「ラーニングコモンズ２」の方が、圧倒的にグループで利用する人が多くなっています（表２）。また、試験期になると

グループで利用する人の割合が増加しますが、それでも約25%の人が個人で利用しており、全体でも約30%の人が個人で利用しています（表３）。

なお、この調査に先立ち平成26年１月に図書館利用者に対して行った「図書館利用実態調査」アンケートにおいて、個人で学習する時とグループで学習する時に、もっともよく利用する場所はどこかという質問を行い、その結果が図１と図２になります。個人の時は１人掛けの席や個室のような静かで集中できると思われる席を選ぶ人もいる一方で、「ラーニングコモンズ」「ラーニングコモンズ２」をよく使うと答えた人が合わせて20%弱いました。またグループで学習する時に利用すると答えた人は合わせて40%以上いることから、人によって学習する時に選ぶ環境に違いがあるといえ、「ラーニングコモンズ」が学習環境の新たな選択肢として定着しつつあると考えられます。

表１　人数（場所別、時期別）

	ラーニングコモンズ	ラーニングコモンズ2	合計
通常期	503	133	636
試験期	1,058	289	1,347
合計	1,561	422	1,983

表２　人数（場所別、個人・グループ別）

	ラーニングコモンズ	ラーニングコモンズ2	合計
個人	567	34	601
グループ	994	388	1,382
合計	1,561	422	1,983

表３　人数（時期別、個人・グループ別）

	通常期	試験期	合計
個人	245	356	601
グループ	391	991	1,382
合計	636	1,347	1,983

今回の調査では利用者の行動と利用している物も調査しており、その結果を個人利用とグループ利用にわけてまとめたのが図３と図４です。なお、利用者の行動と利用している物は一人で複数該当する場合があるので、合計すると先にあげた利用者の延べ人数よりも多くなります。全体で最も多かった行動は「何かを書いている」で、利用している物では「ノート・プリント」という結果でした。また、ノートパソコンや携帯電話など電子機器を利用している人を合わせると、図書、雑誌、新聞など、いわゆる冊子体の資料を利用している人を合わせたよりも多くなっていました。また室内に設置された

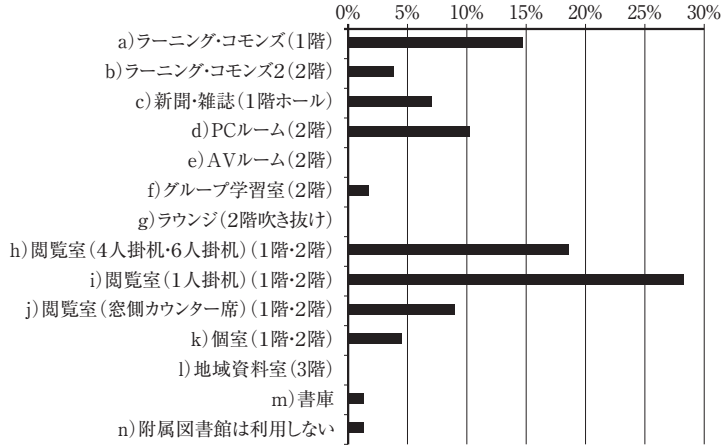

図1　個人で学習するときにもっとも利用する場所

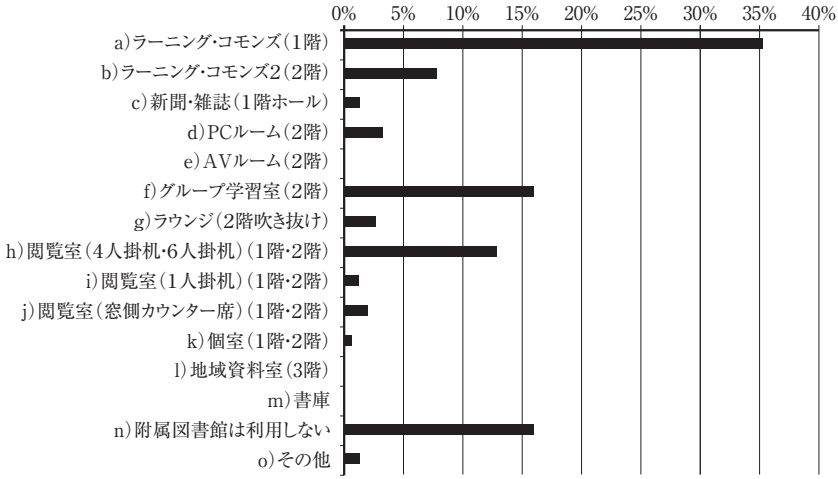

図2　グループで学習するときにもっとも利用する場所

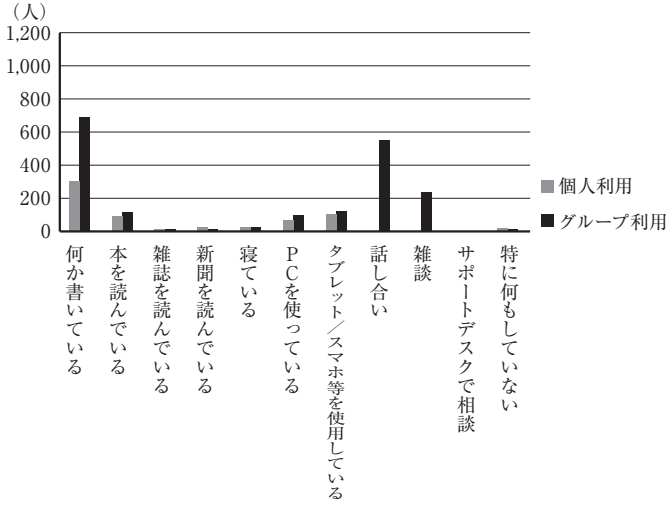

図３　利用者行動（個人・グループ別人数）

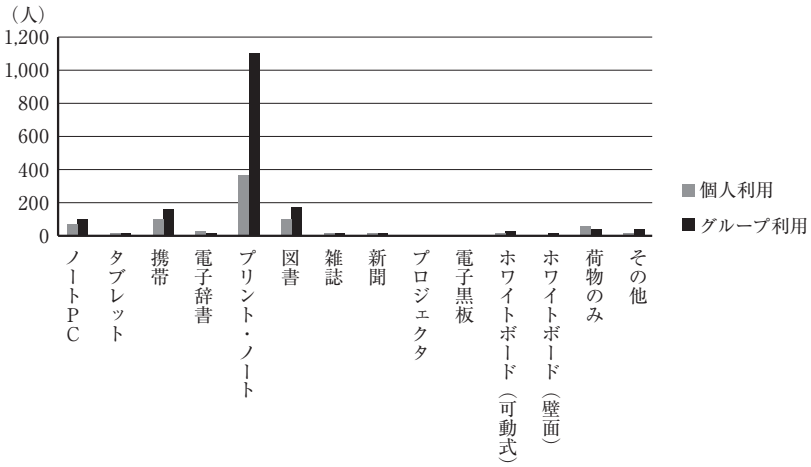

図４　利用物（個人・グループ別人数）

設備に関しては、電子黒板やプロジェクタを利用する人はおらず、ホワイトボードを利用する人も多くはありませんでした。

また興味深い現象として、グループで利用している人のうち、他の人と話をしている人（「話し合い」+「雑談」）は、せいぜい５割強にすぎませんでした。つまり残りの人は一緒にテーブルを囲んでいますが、それぞれノートをとったり、本を読んだり、スマートフォンを操作したり、あるいは寝ていたり、と違う事をしていることになります。

さらに利用者の行動と利用しているものを時期別にまとめたのが図５と図６です。最も多かった行動は「何かを書いている」で、利用している物では「ノート・プリント」という結果は同じでした。試験期は延べ人数が倍以上に増えていたこともあり、大部分の項目で試験期には人数が増加していますが、ノートパソコン（図中ではPC、あるいはノートPCと表記）を利用する人が試験期にはかなり減少しているのが目立ちます。ただ試験期には寝ている人、雑談をしている人、荷物を置きっぱなしにしている人など、好ましくない利用行動をとる利用者が人数、割合とも増加していました。

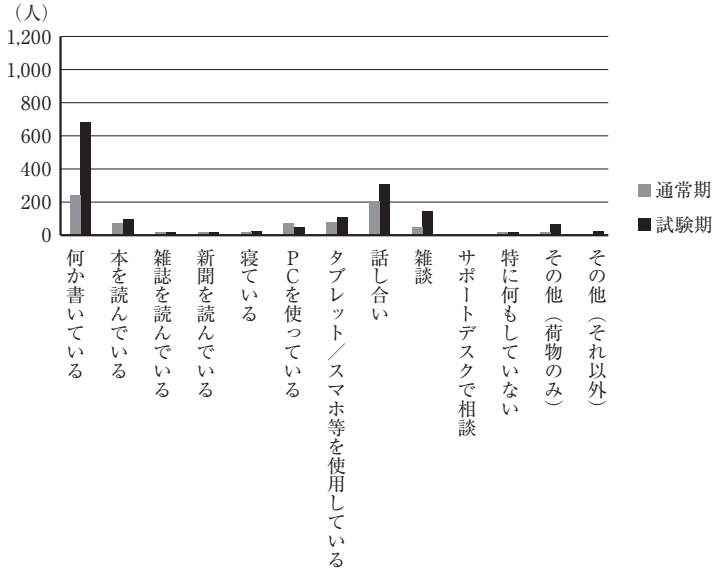

図５　利用者行動（時期別人数）

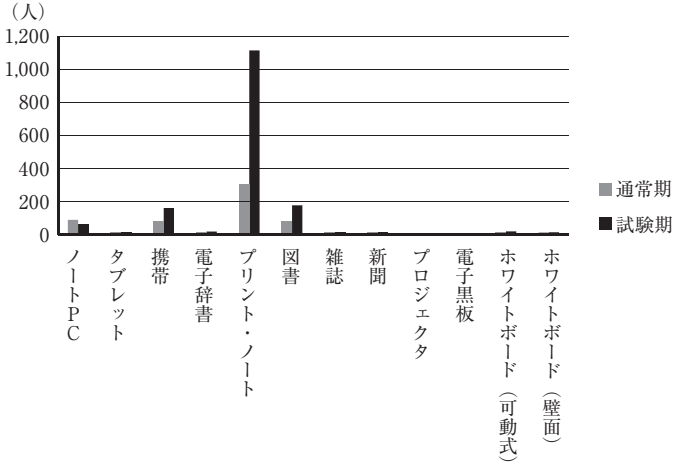

図６　利用物（時期別）

５　まとめ

今回の調査は１時間ごとにその時点での利用状況を切り取ったものですが、同じ利用者が長時間使用しているのか、短時間で利用者が入れ替わっているのか、同じことをしているのか、時間の経過によって違うことをするのかなど、ある利用者の時間経過による行動の変化にまでは踏み込めませんでした。

調査結果をデータ化し分析を加えるのが本稿の目的ですが、この調査結果を元に利用者のよりよい学修環境を提供するにはどうすればいいのか、改善策を検討し実施することが今後の課題になります。

平成25年４月に図書館が再オープンした当初は、職員側が「こう使ってほしい」と思っていても、利用者が「ラーニングコモンズ」というスペースを、どう利用していいのかわからずとまどっているようにみうけられました。しかし改修後１年が経過してから行ったこの調査結果をみると、学生にとっての学習スペースの新たな選択肢として定着しつつあるようです。

注

1）文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室．“用語解説”．文部科学省．http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm，（参照2015-1-26）．

2）米澤　誠．動向レビュー　インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援．カレントアウェアネス．2006，no.289，p.9-12.

3）立石亜紀子．大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態―横浜国立大学附属図書館における観察調査．三田図書館・情報学会研究大会発表論文集．2009，vol.2009，p.5-8.

4）津村光洋．鳥取大学附属図書館のラーニング・コモンズ．鳥取大学教育研究論集．2011，no.1，p.97-102.

5）三根慎二．ラーニング・コモンズはどのように利用されているか：三重大学における事例調査．三田図書館・情報学会研究大会発表論文集．2012，p.25-28.

6）毛利志保，加藤彰一，長澤多代，Khasawneh Fahed A.“「大学図書館ラーニングコモンズにおける利用実態調査」ポスター”．大学教育改革フォーラムin東海2012．名古屋大学，2012-3-3，2012，p.1-2，入手先，三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクション，http://hdl.handle.net/10076/12026，（参照2015-1-30）．